

欧州景気概況(2023年2月)

2023年2月3日

調査部 副主任研究員 土田陽介

ユーロ圏景気概況① 景気は足踏みしている

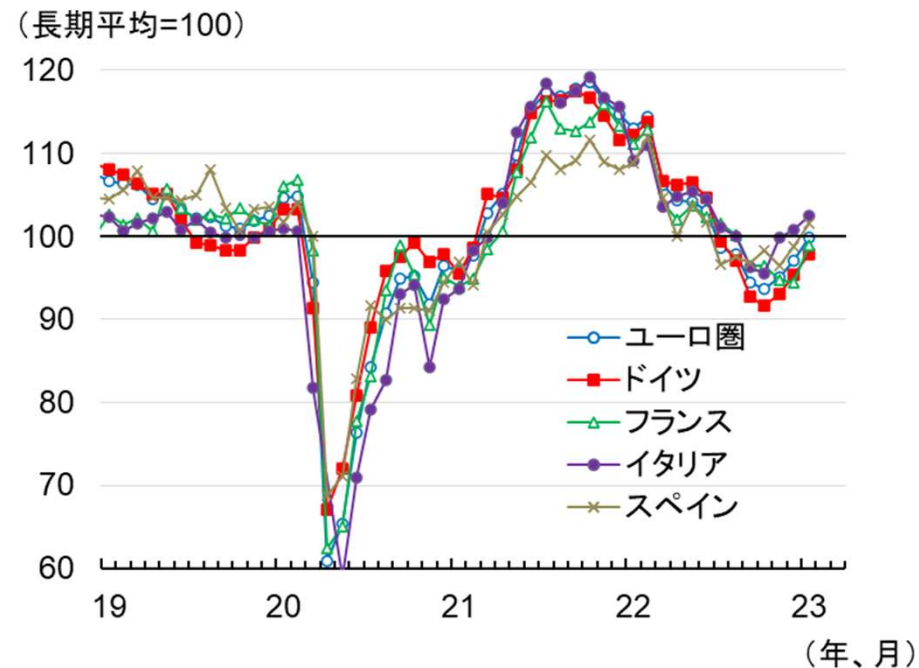
ユーロ圏の2022年10-12月期の実質GDP(速報値)は前期比+0.1%と、2四半期連続で増勢が鈍化した。一方で、景気の方角を示す景況感指数は、最新2023年1月が99.9と3ヶ月連続で上昇しており、景気が底打ちした可能性を物語る。

実質GDP



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)

景況感指数

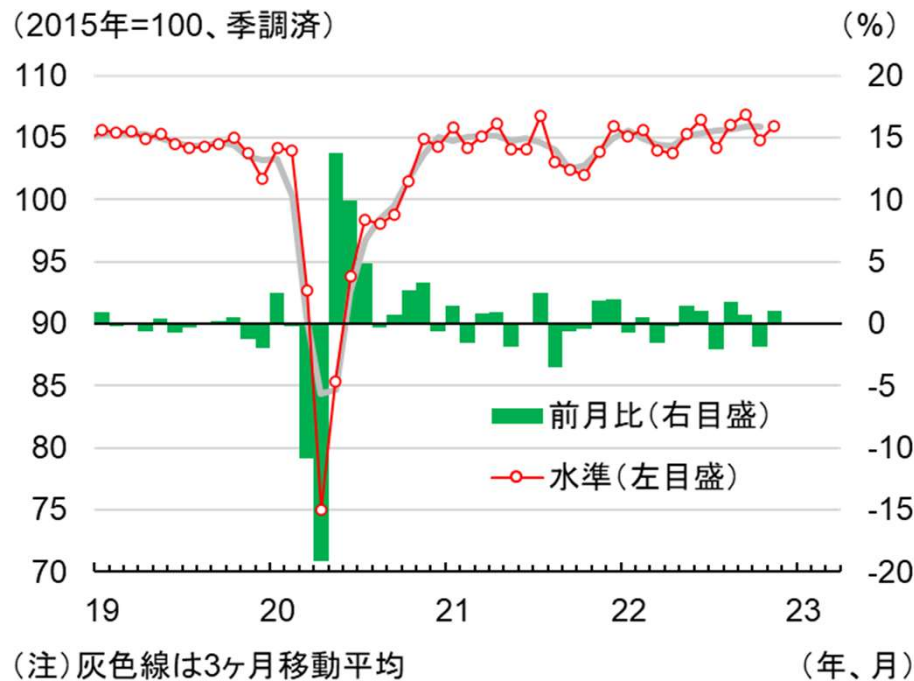


(出所) 欧州委員会ECFIN

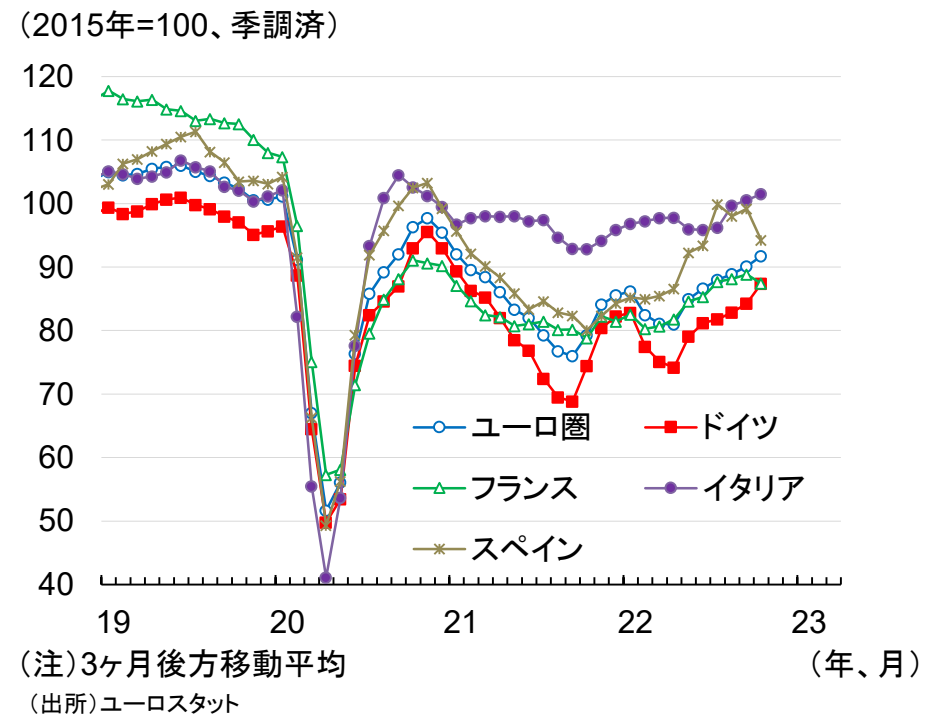
ユーロ圏景気概況② 生産は増加

ユーロ圏の2022年11月の鉱工業生産は前月比+1.1%と増加に転じ、均した動きも上向き。中間材と資本財、耐久財が
増加に転じ、生産全体をけん引した。自動車生産台数は、イタリアとドイツを中心に持ち直している。

鉱工業生産

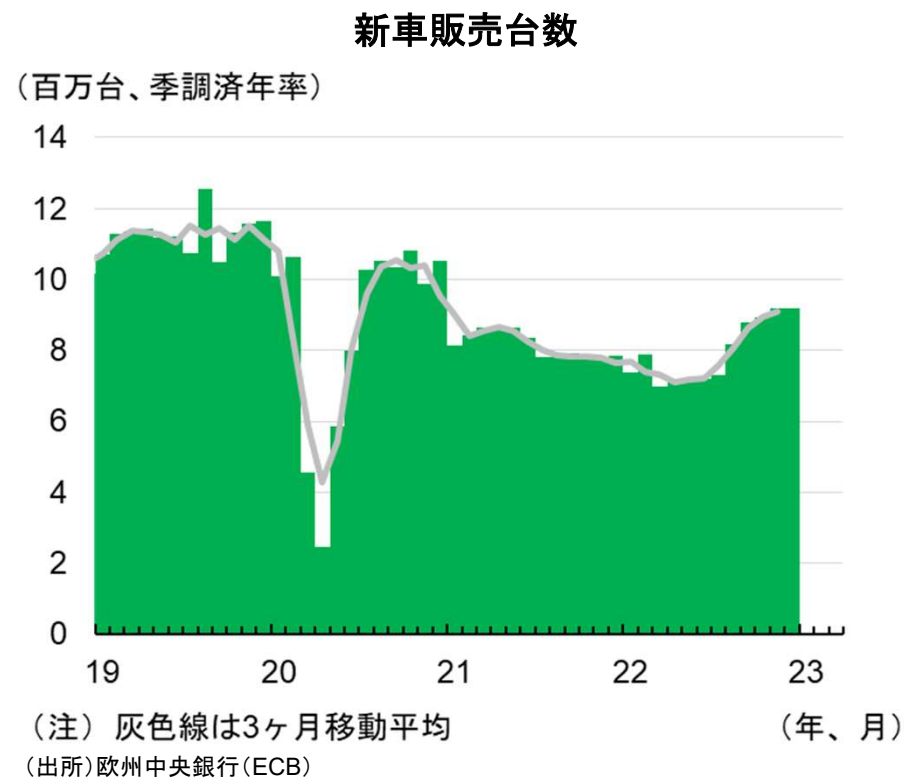
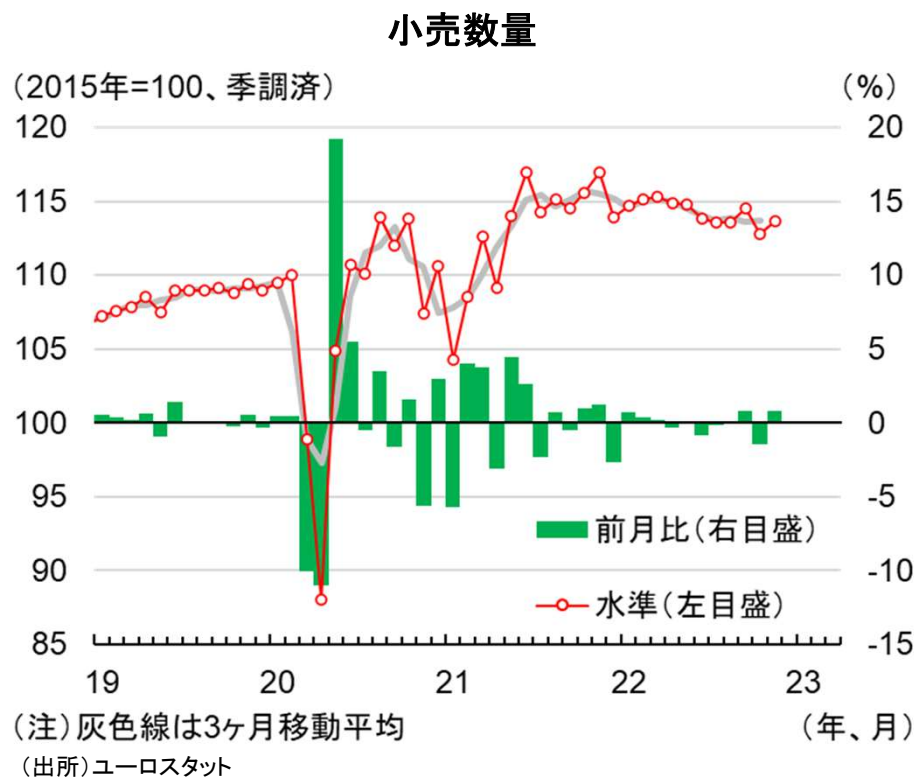


自動車生産台数(鉱工業生産ベース)



ユーロ圏景気概況③ 消費は底入れ

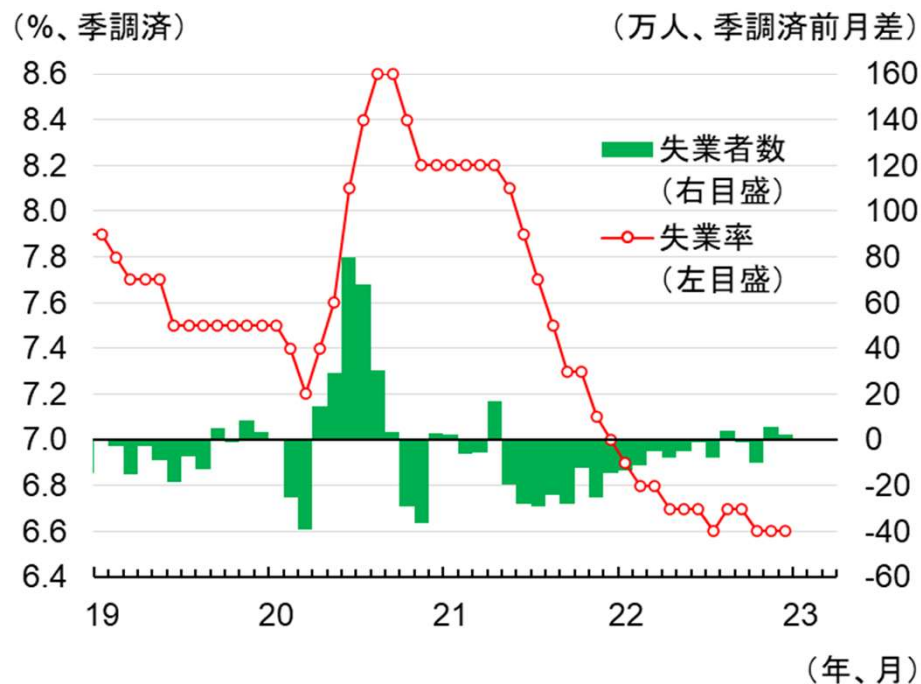
ユーロ圏の2022年11月の小売数量は前月比+0.8%と増加に転じ、均した動きも底入れした。一方、翌12月の新車販売台数は前月比+0.1%の年率919万台と増勢が一服したものの、均した動きは上向き。



ユーロ圏景気概況④ 雇用は改善が足踏み

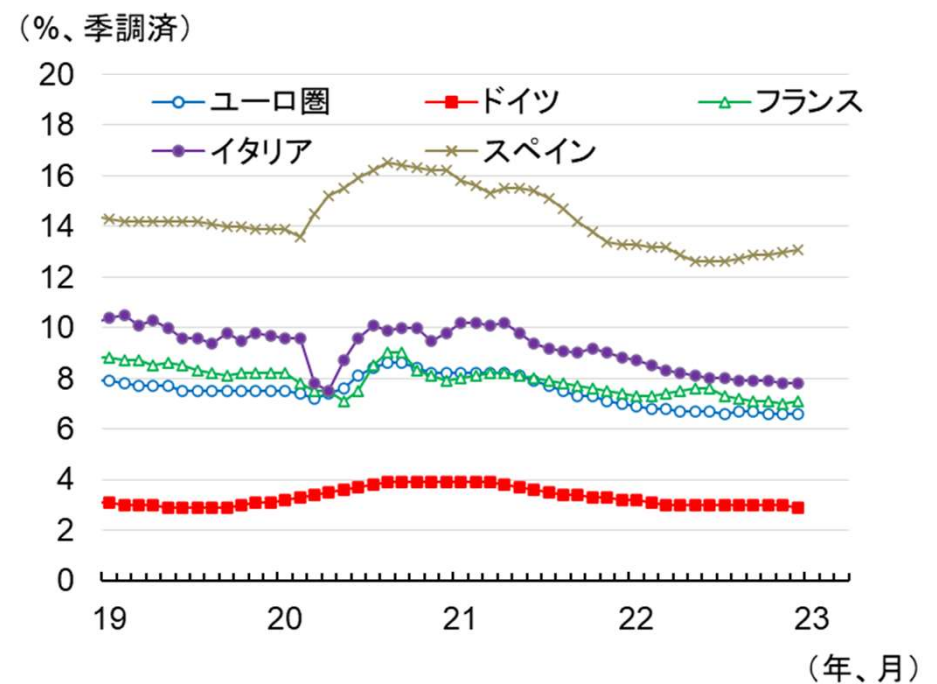
ユーロ圏の2022年12月の失業率は6.6%と3ヶ月連続で横ばい、失業者数も前月比2.3万人増となり、雇用は改善が足踏み。主要国別に失業率を見ると、ドイツとイタリアで失業率が低下した一方で、フランスとスペインで失業率が上昇した。

失業率と失業者数



(出所)ユーロスタット

主要国別失業率

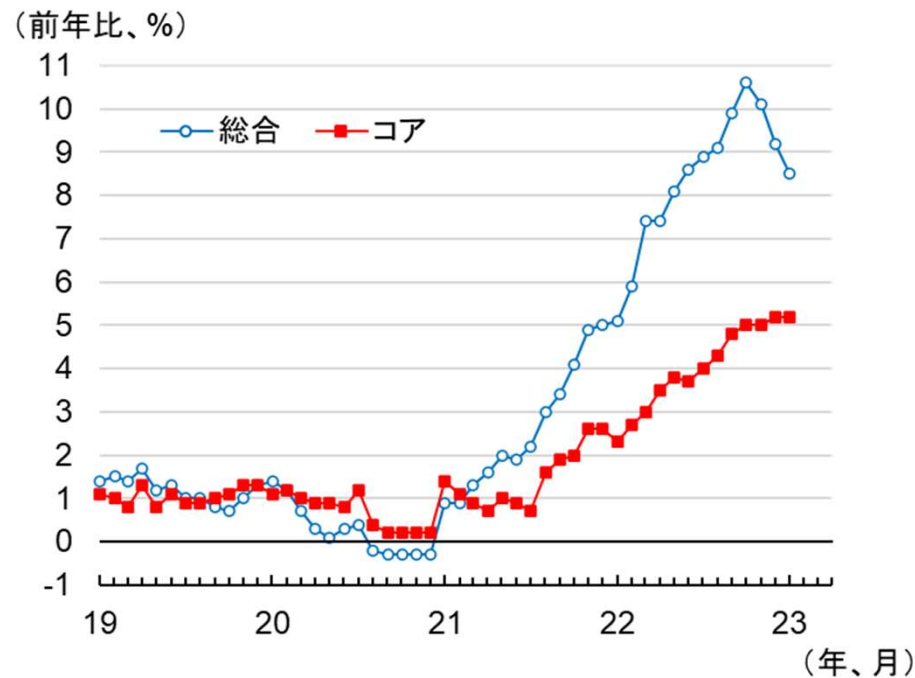


(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑤ インフレは鈍化

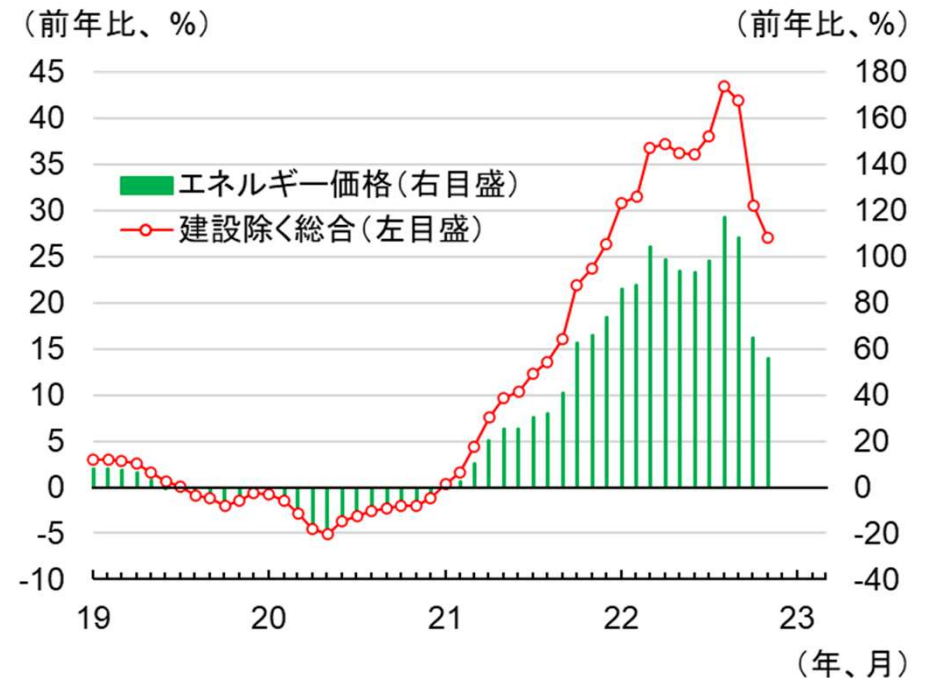
ユーロ圏の1月の消費者物価(速報値)は前年比+8.5%と、3ヶ月連続で伸びが鈍化した。また先行指標である生産者物価(建設除く総合)も2022年11月時点で前年比+27.1%と、3ヶ月連続で上昇が減速した。うちエネルギー価格も同+55.7%と、3ヶ月連続で伸びが鈍化した。

消費者物価



(出所)ユーロスタット

生産者物価

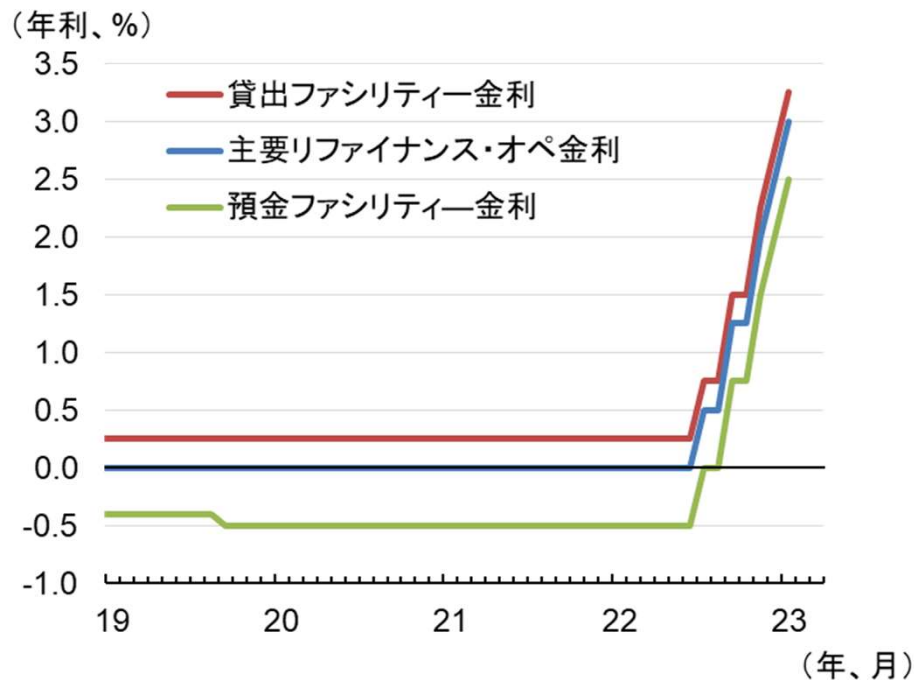


(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑥ ECBは2月理事会で追加利上げを実施

欧州中央銀行(ECB)は2月2日に定例の政策理事会を開催、3種類ある政策金利をそれぞれ0.5%引き上げた。ECBは声明文で、次回3月16日の理事会でも0.5%の追加利上げを行うと表明した。またECBは資産購入プログラム(APP)の下で購入してきた金融資産の削減策(partial reinvestment)に関する原則を公表した。

ECBの政策金利



(出所) 欧州中央銀行(ECB)

2月理事会での決定内容の概要

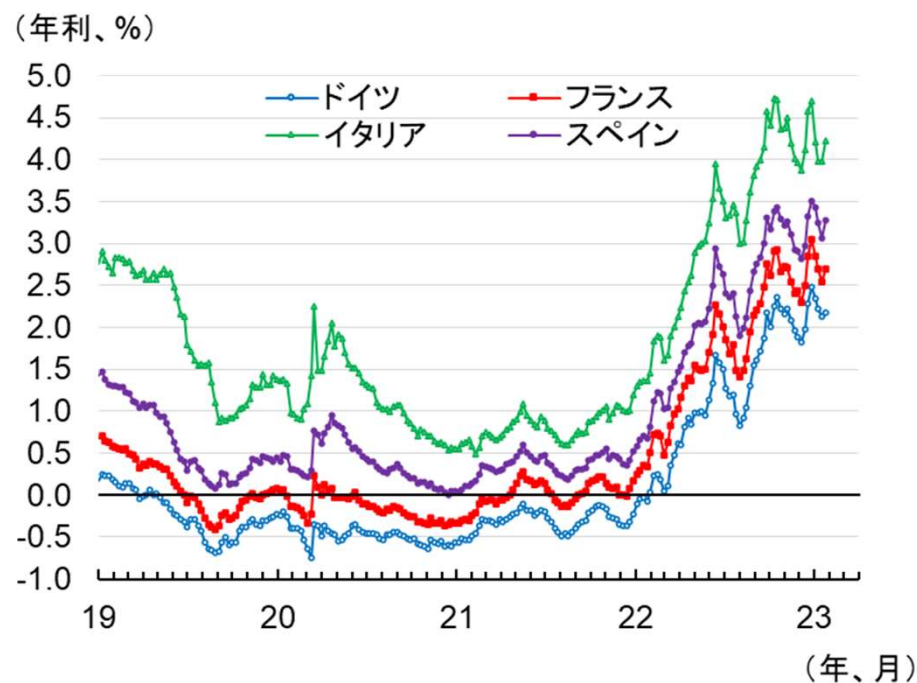
主な決定事項	内容
政策金利	<ul style="list-style-type: none"> ■各政策金利を0.5%ずつ引き上げ(3月も0.5%引き上げ) ・貸出ファシリティ金利 2.75%→3.25% ・主要リファイナンス・オペ金利 2.50%→3.00% ・預金ファシリティ金利 2.00%→2.50%
資産購入の再投資政策	<ul style="list-style-type: none"> ■資産購入プログラム(APP) ・3月から6月まで月150億ユーロのピッチで保有資産を削減 ・社債の再投資に関しては環境への配慮を重視 ■パンデミック緊急購入プログラム(PEPP) ・再投資は2024年末で終了 ・各国中銀の出資比率に応じた資産購入などを適用せず、柔軟な購入を行う
市場分断防止策(TPI)	<ul style="list-style-type: none"> ■TPIの適用条件 ・EUが定める財政ルールへの順守 ・健全なマクロ経済運営(過剰な経常赤字の是正など) ■TPIの具体的な手段 ・流通市場での国債購入、金額は無制限 ・購入対象資産は国債が中心、社債も視野、満期1~10年 ・状況が改善すれば終了 ・経済の基礎的条件に基づく金利上昇には適用せず

(出所) ECB

ユーロ圏景気概況⑦ 金利は一進一退、株価は上昇

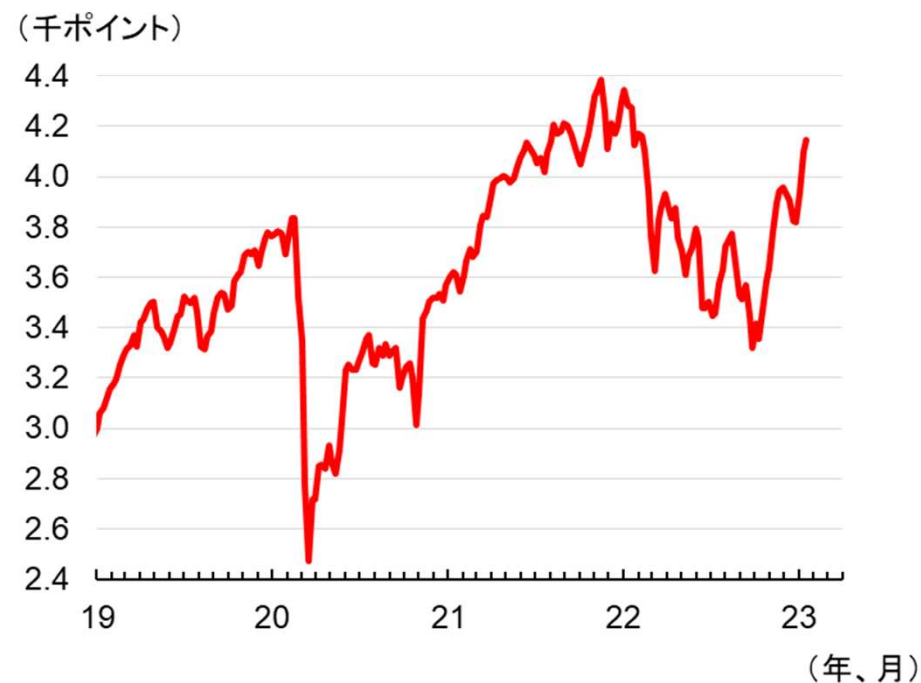
1月のユーロ圏主要国の長期金利は一進一退。米国の追加利上げテンポが鈍化するとの思惑が金利を押し下げた一方、ECBの追加利上げ観測が金利を押し上げた。他方で、1月のユーロ圏の株価は上昇した。企業の好決算が続いたことが好感された。

長期金利



(出所) ECB

株価 (Eurostoxx50)



(出所) STOXX

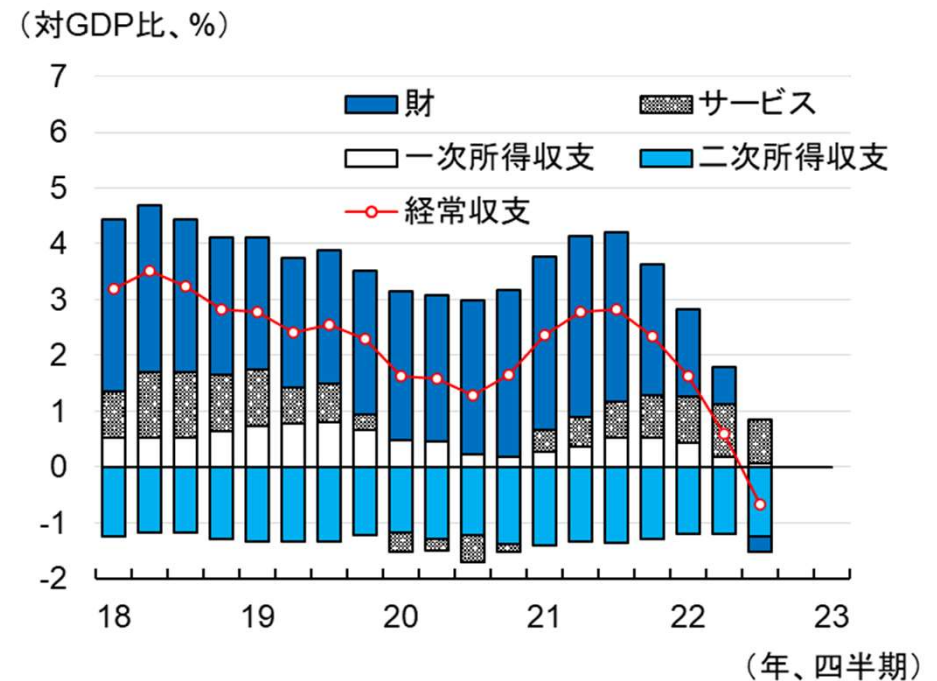
ユーロ圏景気概況⑧ ユーロは対ドル、対円で上昇

1月のユーロ相場は対ドル、対円で上昇。対ドルでは、米国の追加利上げテンポが鈍化するとの思惑から、ユーロ高が進んだ。対円では、日銀による予想外の金融政策の修正で売られたユーロが買い戻された。国際収支は経常収支が赤字に転落しており、実需面からのユーロ買い圧力は弱まっている。

ユーロ相場



国際収支

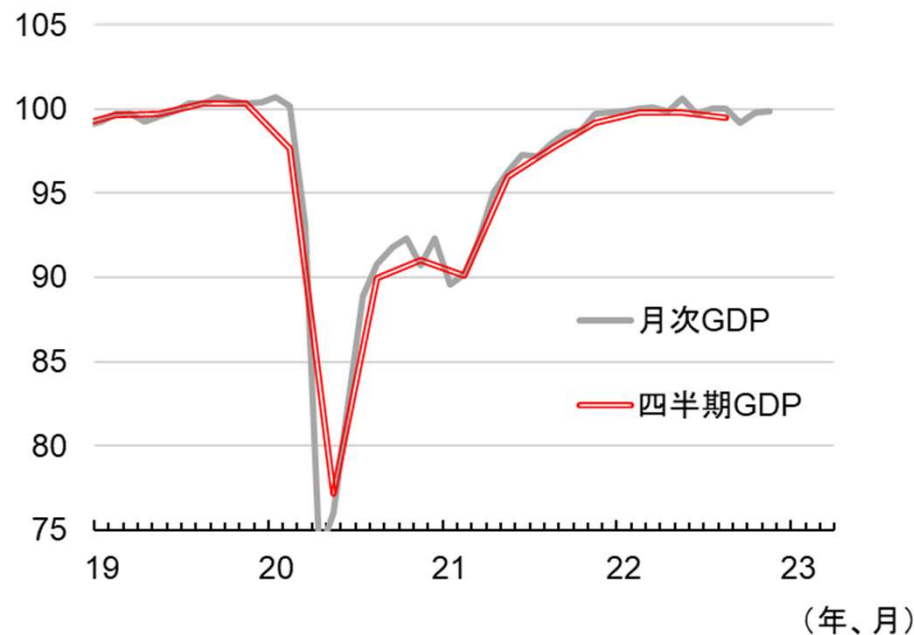


英国景気概況① 景気は足踏みしている

英国の2022年7-9月期の実質GDP(確報値)は前期比▲0.3%と、2021年第1四半期以来の減少に転じた。主要な需要項目の動きを確認すると、個人消費と設備投資が減少して景気の重荷となった。反面で、輸出が堅調に増加して景気を下支えた。一方、11月の月次実質GDPは前月比+0.1%と、増勢が10月(同+0.6%)よりも鈍化した。

実質GDP

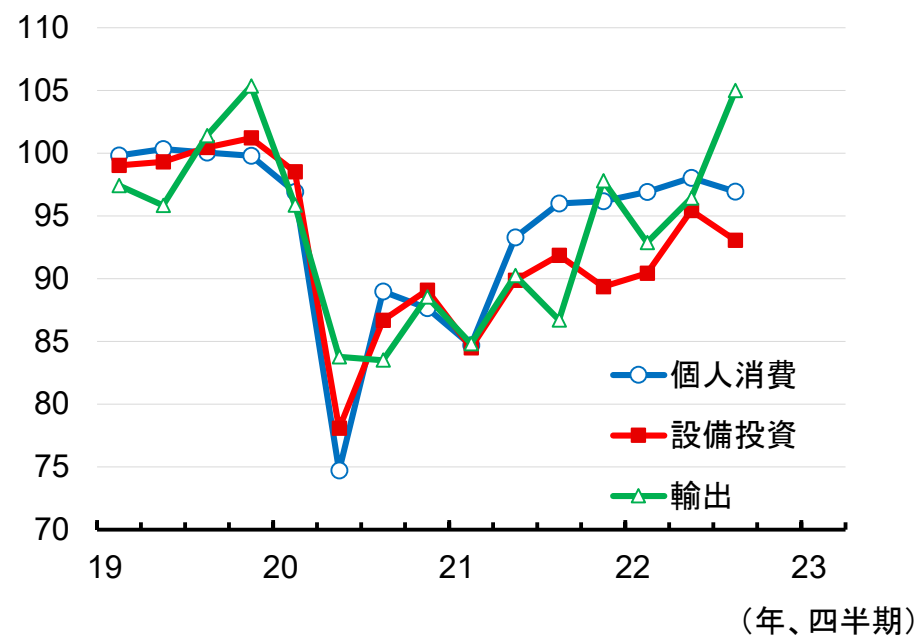
(2019年=100、季調済)



(出所)英国立統計局(ONS)

主要な需要項目

(2019年=100、季調済)



(出所)ONS

英国景気概況② 生産は悪化

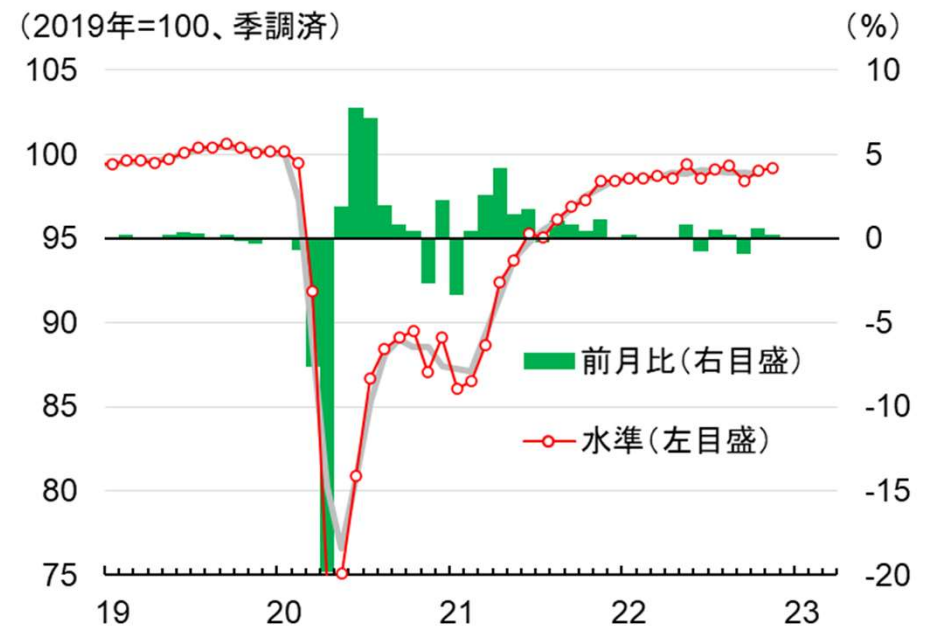
英国の2022年11月の鉱工業生産は前月比▲0.2%と8ヶ月連続で減少し、均した動きは下向き。一方で、同月の実質輸出は同▲3.3%と2ヶ月連続で減少し、均した動きも頭打ち。また同月のサービス生産は前月比+0.2%と10月(同+0.6%)から増勢が鈍化し、均した動きも横ばい。

生産と輸出



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

サービス業生産



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

英国景気概況③ 消費は悪化

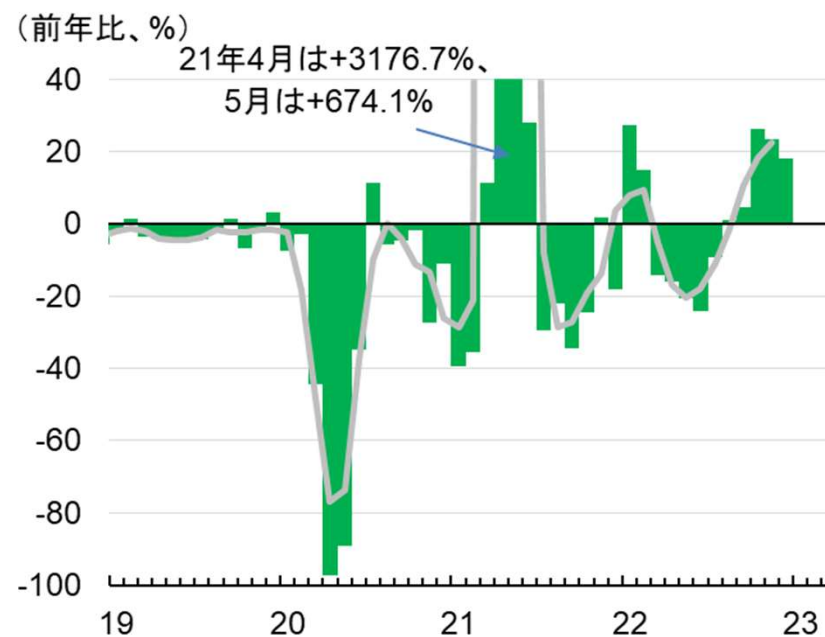
英国の2022年12月の小売数量(除く石油)は前月比▲1.1%と11月(同▲0.3%)よりも減少幅が拡大、均した動きも下向き。一方で、同月の新車販売台数(乗用車)は前年比+18.3%と2ヶ月連続で増勢が鈍化。均した動きはプラスが定着したが、登録台数の水準(12.8万台)は依然として低い。

小売数量(除く石油)



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS (年、月)

新車販売台数(乗用車)

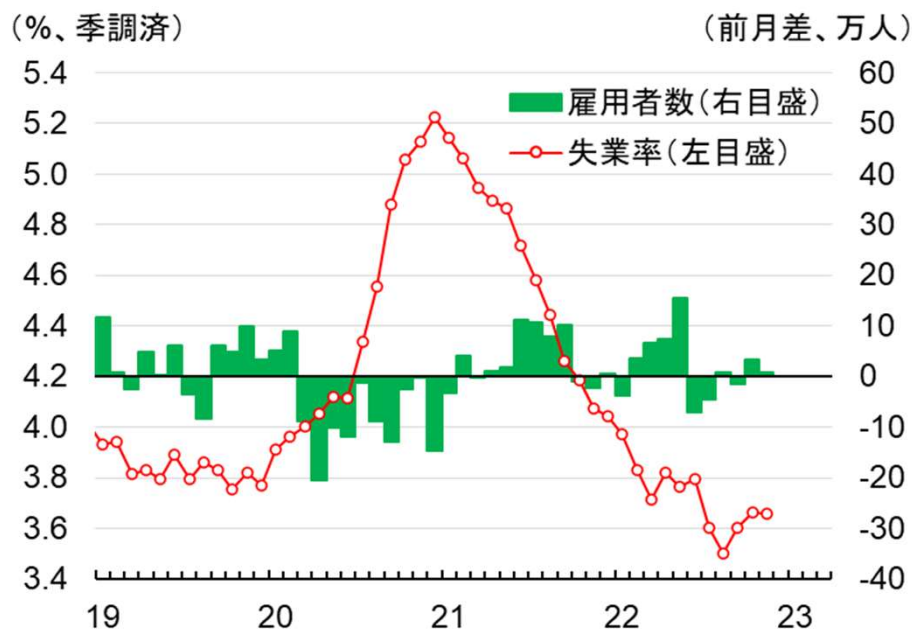


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS (年、月)

英国景気概況④ 雇用は改善が足踏み

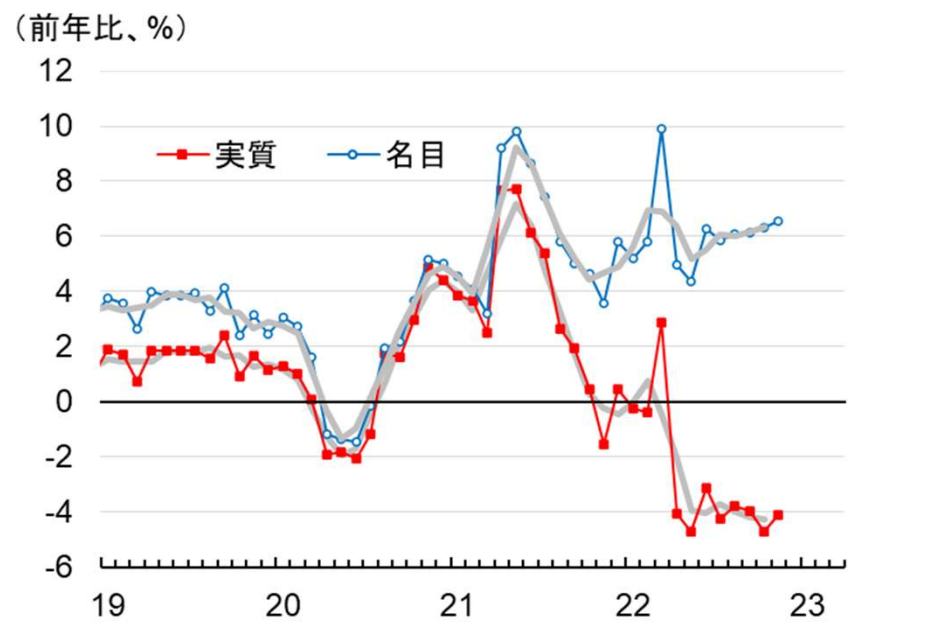
英国の2022年11月の雇用統計(3ヶ月後方移動平均)では、失業率が3.7%と前月から横ばい、雇用者数も前月比0.7万人増にとどまるなど、雇用は改善が足踏み。均した賃金の動きは名目ベースだと前年比6%前後のプラス幅が定着も、消費者物価で実質化した実質ベースだと同▲4%近くの減少幅が続く。

雇用統計



(注) 3ヶ月間の平均値
(出所) ONS

平均賃金(週給)

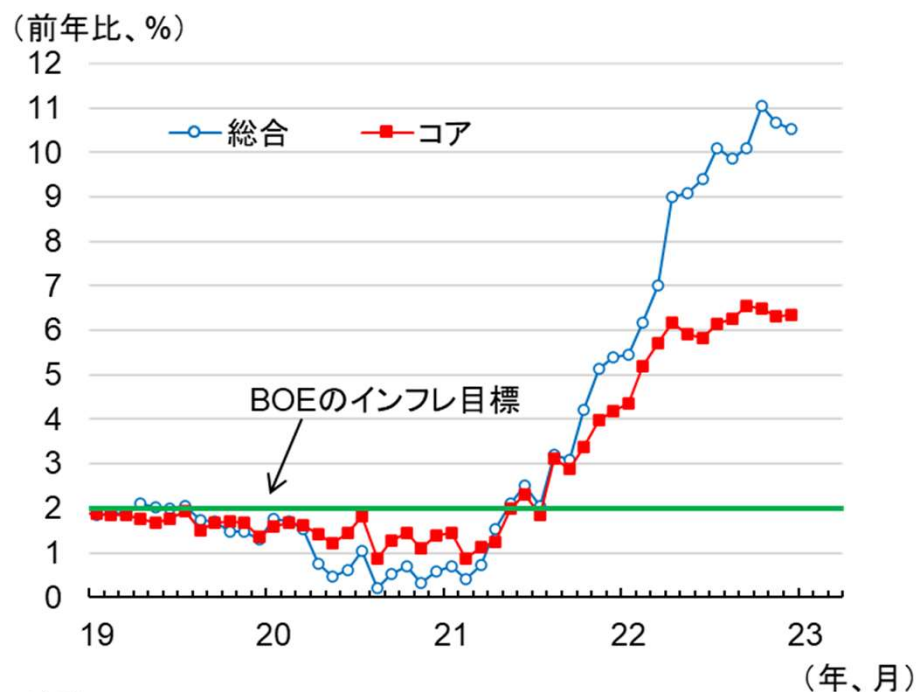


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) ONS

英国景気概況⑤ インフレ加速がピークアウト

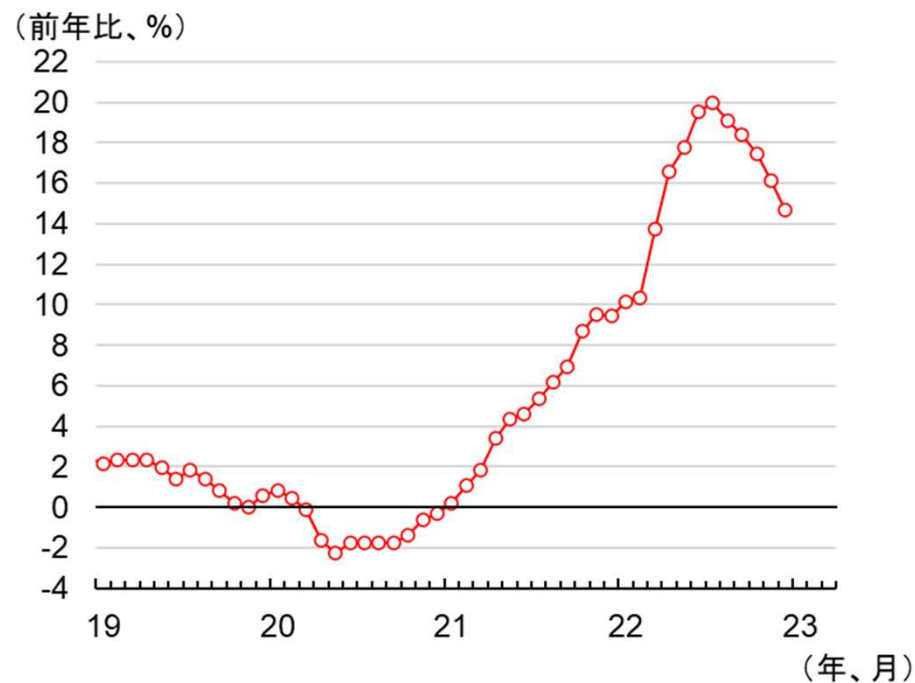
英国の2022年12月の消費者物価は総合ベースで前年比+10.5%と2ヶ月連続で上昇率が低下し、インフレはピークアウトしたが、伸びは依然として高い。先行指標となる生産者物価は12月時点で同+14.7%と、5ヶ月連続で伸び率が低下した。

消費者物価



(出所)ONS

生産者物価(投入価格、除く関税)

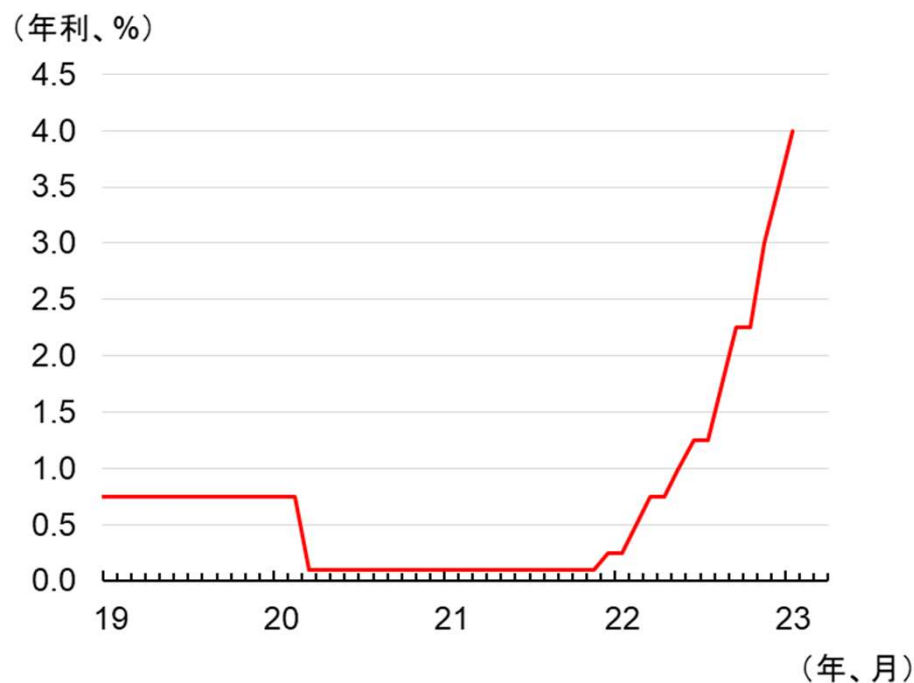


(出所)ONS

英国景気概況⑥ BOEは2月委員会で追加利上げ

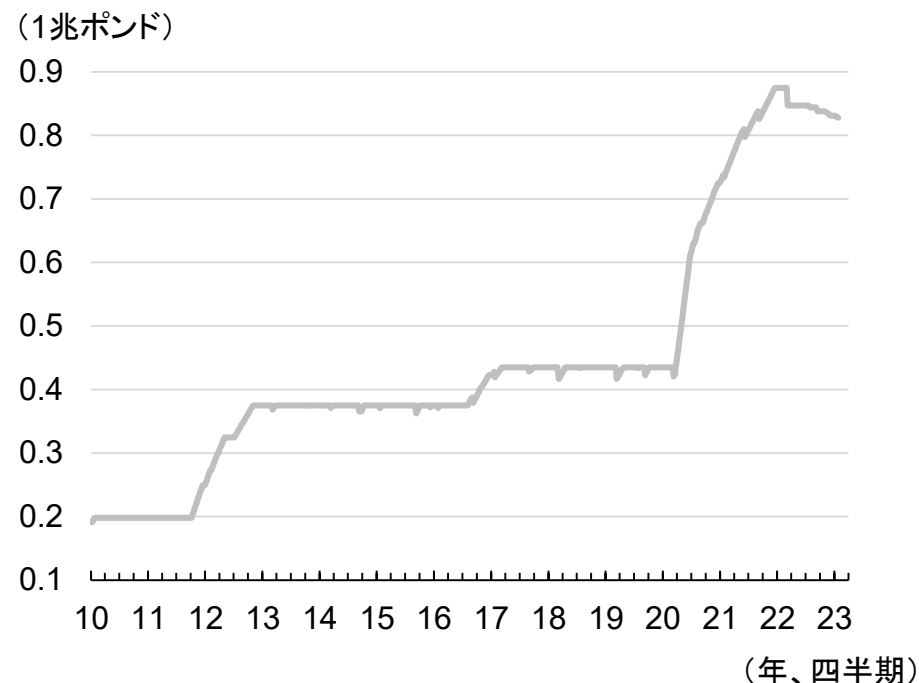
イングランド銀行(BOE)は2月2日に開催した金融政策委員会(MPC)で、政策金利(バンクレート)を0.5%引き上げ、年4.0%にした。またBOEは11月1日から保有国債の市中売却を開始しており、国債の保有高は徐々に減少している。次回の委員会は3月23日の予定だが、利上げ幅は0.25%に圧縮される可能性が高い。

政策金利(バンクレート)



(出所)イングランド銀行(BOE)

英中銀の国債保有高

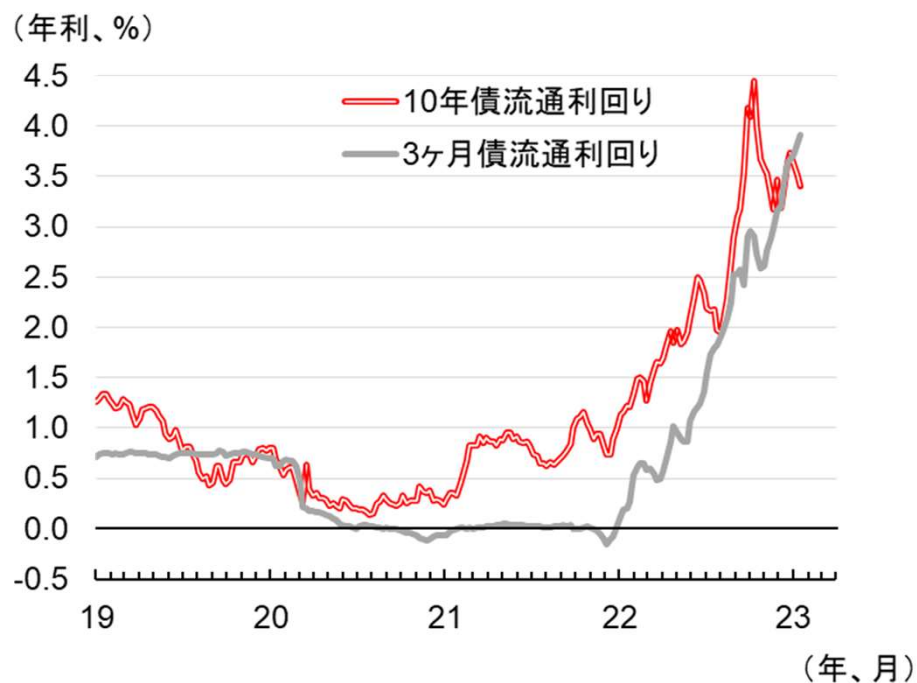


(出所)BOE

英国景気概況⑦ 金利は低下、株価は上昇

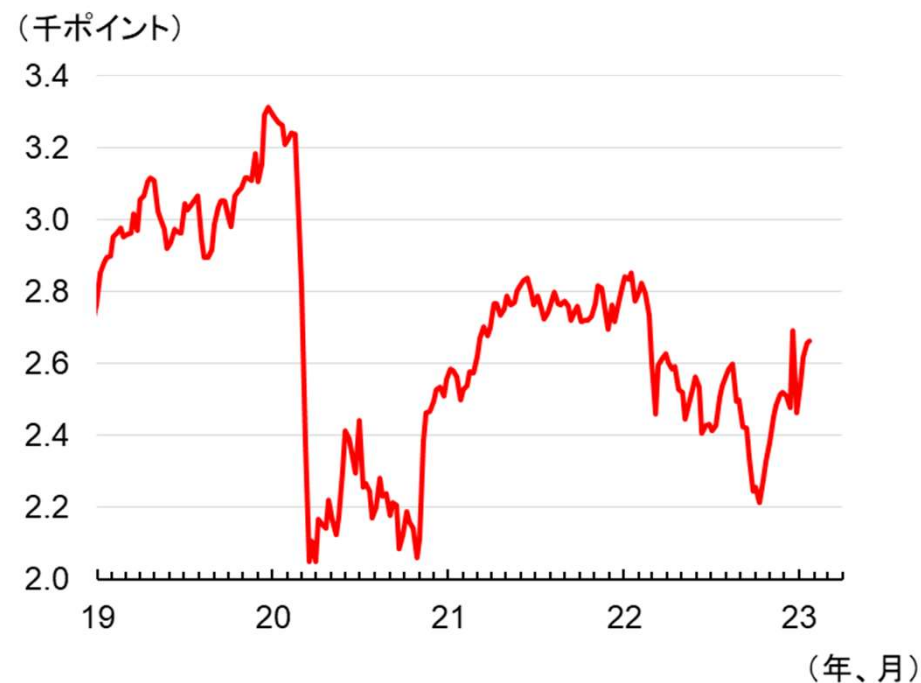
1月の英国の長期金利は低下した。米国の追加利上げテンポが鈍化するとの思惑が金利を押し下げた。他方、1月の英国の株価は上昇した。世界景気の底打ちやインフレ鈍化への期待の高まりが株価を押し上げた。

金利



(出所)BOE

株価 (FT30指数)

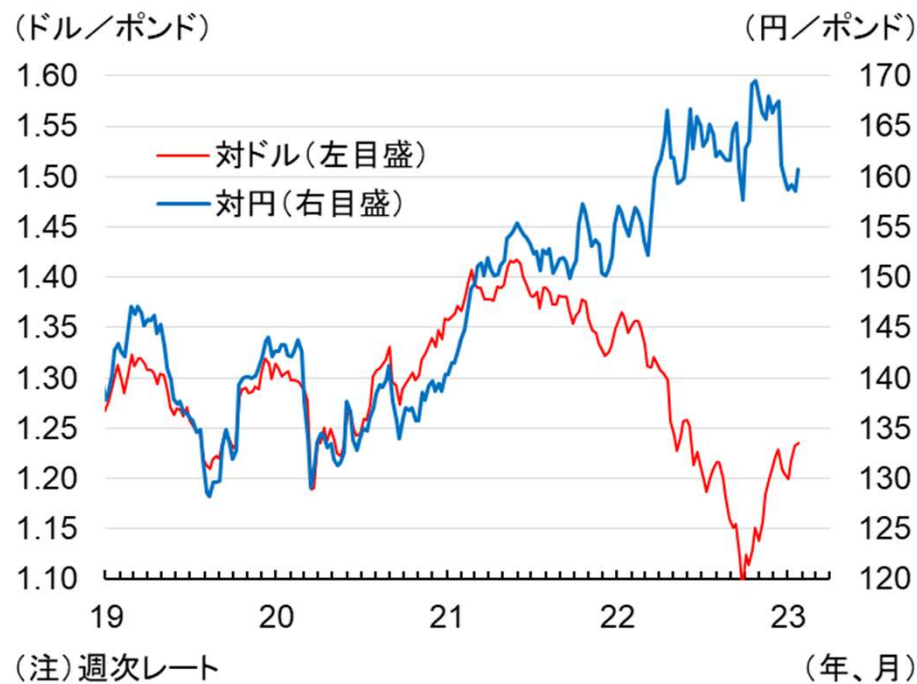


(出所)BOE

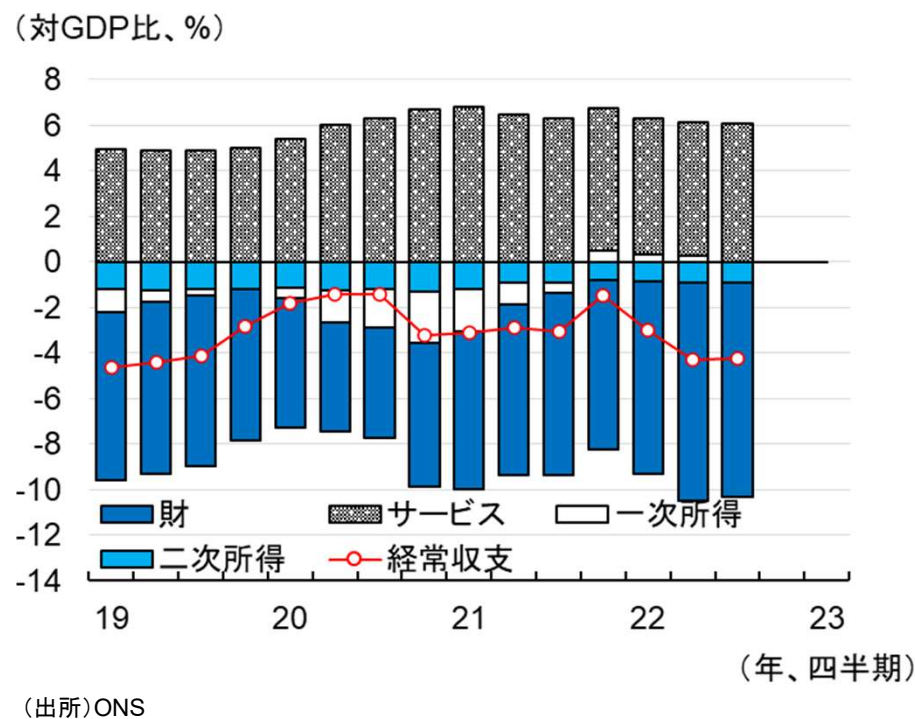
英国景気概況⑧ ポンドは対ドル、対円で上昇

1月のポンド相場は対ドル、対円で上昇。対ドルでは、米国の追加利上げテンポが鈍化するとの思惑から、ポンド高が進んだ。対円では、対円では、日銀による予想外の金融政策の修正で売られたポンドが買い戻された。国際収支を確認すると、経常収支の赤字幅の拡大は一服したが、実需面からのポンド買い圧力は弱いままである。

ポンド相場



国際収支



ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 土田陽介 TEL:03-6733-1628 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡ください